⚠ 維持管理上の注意事項

各部の弁類は開閉状態に間違いの無い事を確認してください。

制御弁・信号停止弁・排水弁・圧力計のボールコックは開閉の状態に間違いの無い事を確認してください。
開閉状態に間違いがある場合には、作動しない等の不具合が発生する恐れがあります。

使用圧力範囲内で使用してください。

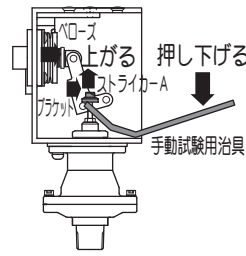
配管圧力は、必ず使用圧力範囲内(0.15～1.4MPa)の状態で使用してください。過大な圧力は機器の破損やパッキン類等の劣化を促進する事となります。

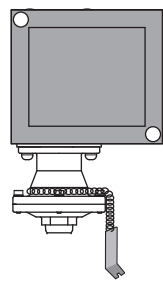
保守点検や部品交換等は専門業者が行ってください。

本製品の保守点検及び部品交換等は、設備や機器を熟知した有資格者や専門業者が行ってください。

手動での作動試験を行う場合には、必ず手動試験用治具を使用してください。

結線作業時等に、流水による作動試験が出来ない等の理由により手動での作動試験を行う場合には、必ず手動試験用治具を使用してください。
ブラケットにドライバー等を引っ掛けて無理にレバーを引っ張った状態にすると、部品の破損等によって作動しなくなる恐れがあります。

【手動操作による作動試験方法】

1. 手動試験用治具の先をストライカーAに掛け、押し下げます。
2. ブラケットが手前方向に傾き、ベローズが徐々に拡がります。
3. 作動遅延時間を経過した後、作動状態となります。

【手動試験用治具保管方法】

通常警戒時には、手動試験用治具をアラームスイッチのダイヤフラム部に掛けて保管してください。

手動試験用治具は必ず所定の位置に設置してください。

複数の流水検知装置を設置される場合においても、附属の手動試験用治具は必ず1台毎に所定の位置(アラームスイッチのダイヤフラム部)に掛けて保管してください。

通常警戒時、制御弁は必ず全開にしてください。

制御弁が全開でない場合、消火性能が失われる事となります。
附属品であります常時開プレートのうちボールチェーンの長いものは、ボールチェーンを制御弁のハンドルに通し、必要時以外には閉止の出来ない様に設置してください。
また、緊急時には制御弁のハンドルを強く回してボールチェーンを切断する事によって制御弁を閉止してください。

その他御不明な点がございましたら下記迄御問い合わせください。

IS 株式会社 立売堀製作所

東京支社	東京都台東区上野5-23-14 DSM御徒町ビル	Tel.03-5688-3121	Fax.03-5688-3110
中部支社	名古屋市千種区今池4-1-29 ニッセイ今池ビル	Tel.052-732-8891	Fax.052-732-8896
大阪支社	大阪市西区立売堀1-10-10	Tel.06-6538-1231	Fax.06-6533-6708
西部支社	福岡市博多区博多駅南2-1-5 博多サンシティビル8F	Tel.092-471-1661	Fax.092-471-1662

札幌営業所・仙台営業所・横浜営業所・静岡出張所・京阪営業所・広島営業所・四国営業所・沖縄営業所

御使用前に必ずお読み下さい

この度は、弊社製流水検知装置を御採用いただき誠に有難うございます。
本製品は厳しい品質管理の元で製造され、高度な品質と性能を誇る製品でございますが、御使用に関しまして下記事項に御留意のうえ御使用いただきますようお願い申し上げます。
施工業者様に於かれましては、本書の全項目をよくお読み頂き、ご理解のうえ、ご使用下さいます様お願い致します。また、御施主様へは、施工業者様が内容をよくご説明の上、お渡しくださいます様お願い致します。
設置後の設備管理にあたる方に於かれましても、本書をよくお読みのうえ、関係者に周知してください。尚、本書はいつでも見られる場所に大切に保管してください。

⚠ 対象製品及び用途

この取扱説明書は下記製品に適用いたします。

製品記号	呼び径	検知流量定数	用　　途
IS-AV-65N2-10K	65A	K50•60併用型	水系消火設備 泡消火設備
IS-AV-80N2-10K	80A		
IS-AV-100N2-10K	100A		
IS-AV-125N-10K	125A		
IS-AV-150N-10K	150A	K60	

⚠ 付属品の明細

構成部品・附属品は下記の構成となっております。附属品が全部揃っているか御確認ください。

	機　器　名	摘　要	数量等
本体構成部品	本　体	排水弁・オートドリップ付	1台
	排水弁	50A(2")	本体組込済
	信号停止弁	10A(3/8")	本体組込済
	オートドリップ	ADr-M	本体組込済
	アラームスイッチ	PS−T	1台(現場取付)
附属品	圧力計用ボールコック・管継手	アングル弁・SGP配管10A(3/8")	2組
	圧力計	75φ×2.5MPa 10A(3/8")	2個
	取扱説明板(ラミネート)	流水検知装置近くの見易い場所に取付けてください。	1枚
	常時開プレート	設置場所:制御弁(ボールチェーンの長いもの)・信号停止弁	2枚
	常時閉プレート	設置場所:排水弁	1枚
	表示プレート	制御弁(スプリンクラー) 白文字赤バック(100×300)	1枚
	手動試験用治具	使用方法及び設置場所記載の説明プレート共	1組

バタフライ弁セットを併せてお求め頂きました場合には、下記の附属品が追加となります。

	機　器　名	摘　要	数量等
本体・附属品	本　体	消防認定品	1台
	相フランジ	JIS10K 溶接フランジ	2枚
	フランジパッキン(流水検知装置二次側分)	ノンアスベスト 内パッキン	1枚
	フランジボルト・ナット(流水検知装置二次側分)	65A•80A M16×65L 半ねじユニクロ 100A M16×70L 半ねじユニクロ 125A M20×75L 半ねじユニクロ 150A M20×75L 半ねじユニクロ	65A:4組 80A:8組 8組 8組 8組
	バタフライ弁用ボルト・ナット	65A•80A M16×110L 半ねじユニクロ 100A M16×120L 半ねじユニクロ 125A M20×125L 半ねじユニクロ 150A M20×130L 半ねじユニクロ	65A:4組 80A:8組 8組 8組 8組

流水検知装置とバタフライ弁の間に両端フランジ付短管(俗称:鼓)を設置される場合は、流水検知装置一次側分のフランジボルト・ナットとフランジパッキンが別途必要となります。

⚠ 設置前の注意

取付方向について

本製品は、縦型取付専用です。横向きでの使用はできません。

本体構成部品について

本製品は日本消防検定協会の検定対象品です。本体構成部品を本製品機器の組合せ以外の状態で使用する事はできません。

保管について

本製品は、精密加工部品が組み込まれていますので、落下させたり、衝撃を加えないでください。
アラームスイッチに強い衝撃が加わると、製造時に設定した作動遅延時間に狂いの発生することがあります。

本製品は、直射日光が当る場所、高温・多湿になるような場所、振動の多い場所、腐食性ガスの発生あるいは滞留するような場所には保管しないでください。
また、製品は標準梱包のまま保管してください。

設置場所について

凍結の恐れのない場所に設置してください。 破損の原因となります。

本製品は、水等が掛からず、粉塵等の発生しない屋内で、腐食性ガスの発生あるいは滞留しない場所に設置してください。

⚠ 施工上の注意

取付けについて

本体の内部に異物が無い事を確認してください。

本製品を取り付ける際には、本体側面の↑を確認し、流水方向に間違いがない事を確認してください。

排水弁への排水管の接続は、的確な芯合わせを行い、排水弁に無理な力が加わらないように設置してください。

アラームスイッチはカバー・接続端子以外は分解や取外しをしないでください。正常に機能しなくなる可能性があります。
作動遅延時間の調整が必要な場合は、お問い合わせください。

アラームスイッチは下記の接点容量以下で使用してください。これを超える電圧や電流が掛かった場合には、接点が破損し正常に作動しなくなる恐れがあります。

電圧(V)	電流(A) AC	電流(A) DC
30		6
125/250	10.1	

取付の際には、メンテナンス性を考慮したスペースを確保してください。

排水効率の悪くなるような配管は避けてください。
配管からの背圧により他系統の流水検知装置が作動する恐れがあります。

鳥居配管等により、流水検知装置二次側の残存空気が多い場合には、チャタリング現象(弁体が間欠的に開閉を繰り返す事により、アラームスイッチも間欠的に作動・復旧を繰り返す現象)により警報が発報されない場合があります。

配管耐圧試験の際、やむを得ず流水検知装置側からの加圧を行なう場合、排水弁の排水口側からの加圧はお止めください。アラームスイッチに高圧力が掛かり、正常に機能しなくなる恐れがあります。

施工の際、配管内に異物が入らないように注意してください。
配管工事終了後には、貯水槽の清掃や信号停止弁を閉止した状態でのフラッシング等により配管内の異物を排水管より取り除いてください。
異物が弁体部等に挟まったり噛込んだりした場合には、正常に機能しなくなる恐れがあります。

アラームスイッチ・圧力計用ボールコックや配管継手の接続にはシールテープを使用してください。
ヘルメ剤・ロック剤等を使用された場合、余剰分が内部に入り込み、正常に作動しなくなる恐れがあります。

流水検知装置本体やアラームスイッチ等の構成機器を足場代わりにしないでください。故障や漏水発生の要因となります。

⚠ 水張り作業及び点検時の注意

消火用水について

配管内の水は、水道水を使用してください。酸・アルカリ・塩分等を含んだ腐食性のある水は絶対に使用しないでください。
流水検知装置のみならずスプリンクラーヘッド等の設備に悪影響を及ぼします。

水張り(配管内への注水)・排水時のバルブ操作

二次側配管への注水及び二次側配管内の排水は、信号停止弁を閉止した状態で実施してください。

注水時には、二次側配管内に空気溜まりが生じないように末端試験弁を開放して空気を抜きながら注水してください。 また、点検時(作動確認時)には、末端試験弁を全開にしてください。

排水弁を操作する際、パイプレンチ等の工具を用いてハンドルを過大な力で締め込まないでください。
パッキンやディスクの破損につながる恐れがあります。